

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立真亀小学校	校長氏名	三吉 学	生徒指導主事氏名	長尾 圭一郎
-----	-----------	------	------	----------	--------

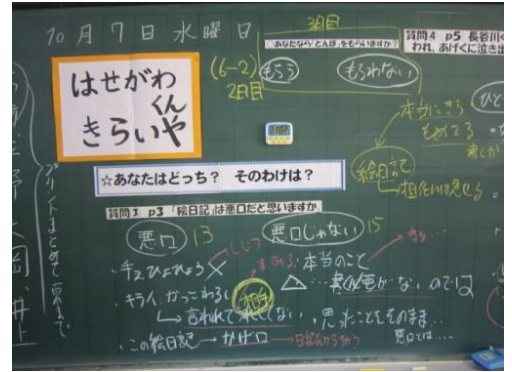
取組事例名 『倉田さんを迎えて～人と違っていることは恥ずかしくない～』（6年生）

取組のねらい 「キーワード『人と違っていることは恥ずかしくない』」

障害により手が使えないため、生活の全般を足で行う倉田さんとの出会いや倉田さん本人との身体を使ったふれ合い活動の中で、「心のバリアフリー」に繋がることを目指す。

取組の具体的内容 「キーワード『であい』『ふれあい』『わかりあい』」

- ① 「はせがわくんきらいや」（道徳オリジナル教材）を3～4時間学習し、人間とは何か、自分の中の「みんな」に障害をもった人は入っているのか、などを考える。また、クラスにもいる、いわゆる「しんどい」子、その子を無視しない、放っておかないことの「しんどさ」とともに、それを超えた「優しさ」、そして「優しさ」とは何か？を子どもたちと一緒に考える。
- ② 倉田さんを迎えるにあたって、どんなレクリエーションを行うか考え、子ども自身で企画・運営できるようにしておく。
- ③ 倉田さんを迎えて～大運動会～
・始めの言葉 ・ゲーム ・結果発表 ・終わりの言葉
- ④ 倉田さんの講演
～人と違っていることは恥ずかしくない～
- ⑤ 倉田さんと給食
- ⑥ 実際に倉田さんの改造車やその運転を見る
- ⑦ 倉田さんのドキュメンタリーDVDを見る
- ⑧ 資料「倉田さんを迎えて」（プロフィール・生き方・メッセージなど）を読んで、倉田さんに手紙を書く。
- ⑨ クラス実態に合わせて、必要と思える事後指導等を行う。



取組の課題・創意工夫 「キーワード『驚きを伴う感動体験』」

- ① この本（はせがわくんきらいや）は、「同情」「あわれみ」をきっぱりと否定し、「うわつつらの優しさ」を描かず、きれいごとで収めていない。その「丸ごとの人間の本音」の出会いと関わりの中から、「人間の優しさ」とは何かを考えさせる。また、子どもたちは「あなたはどっち？」というめあての中で主題に迫っていき、モラルジレンマにより、葛藤し、自己矛盾する自分に気づいていく。
 - ② 倉田さんの写真やプロフィール、昨年の授業風景などから倉田さんの人物像に触れ、倉田さんも含めて、参加するみんなが楽しめるレクリエーションなどを考えて、企画・運営できるように準備を進めていく。その際、偏見や差別につながらないように配慮しつつ、子ども自身が持つ発想を大切にしてゲーム等を企画運営できるよう支援していく。
 - ③ とにかく、ふれ合える、話せる雰囲気作りに努める。また、少しでも、倉田さんと関わられるようにフォローを行う。
・「ルール」がしっかり分かるように、説明のボードなどを活用するなど工夫させる。
 - ④ 倉田さんの大切な言葉などを黒板に書き込みながら、子どもたちの思考が深まるよう心がける。
・子どもの率直な意見が出やすいように配慮する。
 - ⑤ 倉田さんにとって当たり前の「足」での食事を見て、感じながら、楽しく会食ができるようにする。
 - ⑥ 実際に足で運転する改造車を見たり、動く姿を見ることで驚きを伴う体験活動とする。
 - ⑦ 分かりにくい場面などは、補足しながらDVDを鑑賞し、倉田さんの生き方・メッセージに迫る。
 - ⑧ 倉田さんの「であい」「ふれあい」「わかりあい」の大切さ、そして、「どうせ〇〇を、、、せつかく〇〇に変える」というメッセージについて、考えを深める。
- ▲ ただし、クラスの中のしんどい児童や立場の弱い児童に対して、未だに傷つく発言や行動をしたり、全然そのことに気づかなかつたり、まだまだ、「倉田さんと学んできた思いやりの心」を理解しているとは思えない。引き続き、さまざまな教育活動の中で、人間理解をより深め、共感的理解能力を培っていきたい。また、生徒指導規程を改訂し修学旅行等で徹底してきた「みそあじ」（みだしなみ、そうじ、あいさつ、じかん）の指導により、服装の乱れはかなり改善されてきたが、まだ、一部の児童や親に徹底されていない部分もある。卒業式に向けてもう一歩、頑張らせていきたい。



取組の成果（効果） 「キーワード『どうせ〇〇 → せっかく〇〇へ』」

自尊感情が低く、すぐに「どうせ、、、」と言う傾向の児童が多く、高学年になるにつれ、問題行動を起こしたり、無気力になったりしている児童も少なくない。もともと倉田さん自身も自らの「障害」というものを受け入れきれず、「どうせ障害者だから、、、」と高等部くらいまでは、何でも諦めていたが、様々な「であい」「ふれあい」「わかりあい」の中で、少しずつ自分を受け入れていき、今では、「どうせ障害者だから」でなく、「せっかく障害者に産まれたのだから」と変わっていったと話される。そして、やたらと他人の目を気にする児童たちに「人と違っていることを恥ずかしがらないで」と力強いメッセージを送ってくれ、そのことでとても勇気が出たとたくさんの児童が感想や手紙等で述べている。

また、児童自らで様々なコーナーを企画運営することで楽しみながら「ルール作りの大切さ」を知り、規範意識の向上に役立っていると考えられる。さらに、倉田さん（障害者）が入ることで「みんな」を考え直したり、「他の身体の不自由な人や妊婦のお母さんも参加できるようにするには」という発言が出るなど、発言やゲーム作り、ルール作りの中に「思いやりの心」が多々見られた。

今後の展開 「キーワード『あと一步踏み出して卒業』」

- ・道徳授業「思春期～大人へ 考えておきたいこと」・・・思春期とは？ 思春期で学ぶべきこと
「秘密の友だち（賞賛）」＋アドラー心理学入門（他人でなく、自分を変える意味）

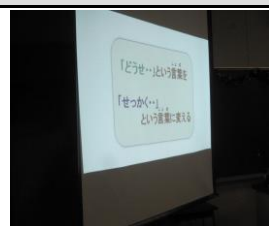
上記を通して、思春期で学ぶべきこと（仲間と仲良く＋孤独を楽しむ）や自分を変えることで見えてくる景色や幸せなどを共に考えていく。

- ・縦割りドッチボール大会（縦割り班）、キラキラ大作戦（社会奉仕・清掃活動）、
落合中出前合唱（中学生への憧れ・尊敬ほか）、「6年生を送る会」（縦割り班・6年生への憧れ・感謝）

上記を通して、自分以外にも、憧れてくれている後輩やかっこいい先輩、地域の方々などにもう一度気づき、感謝をもち卒業できるようにさせていく。

- ・卒業式（規範意識）

しっかり卒業式で「感謝」とともに「立派な6年生」を見せることにより、後輩の規範意識の向上に繋げていく。



他校へのアドバイス 「キーワード『たまにはルールを引きすぎない時間を』」

現代の子ども達は、子ども同士で何かを企画したり、自由に発想したり、このような時間がない中で育っていると考えられるとともに、効率化や目に見える成果ばかりに視点がいきがちである。それ故、本校でも学級活動などの企画をさせると当初は、周りからみると、とても手を差しのべたくなるような状況が起こる。しかし、その様な状況でも、子どもたち自身は楽しそうな笑顔であり、そこを乗り越え、様々な企画の会のレベルも少しずつ向上していく。子ども達に「感動を伴う体験活動」を保障し、「たまには、ルールを引きすぎない時間」を確保できる余裕をもって欲しいと願う。

